

1 スピロヘータ

スピロヘータとはらせん状の形態をしたG(一)の真正細菌の総称。学名の由来は「コイル状の髪」を意味するギリシア語をラテン語に音写したものである。他の細菌とは異なり、菌体の最外側にエンベロープを持ち、それが細胞体と鞭毛を覆っている。細胞壁が薄くて比較的柔軟であり、鞭毛の働きによって、菌体をくねらせたりコルク抜きのように回転しながら活発に運動する。粘稠な液体、粘膜中でも移動でき、粘膜組織感染での有利な性質となっている。



梅毒トレポネーマ

Treponema pallidum 梅毒トレポネーマ

形態: 回転運動。ギムザ染色、鍍銀染色

培養: 人工培養不可

抵抗性: 乾燥に弱い。42° C以上で死滅。
消毒薬にも抵抗性弱い

病原性:

第1期

感染後3週間～3か月の状態。

10～30日間の潜伏期

トレポネーマが侵入した部位に硬性下疳（無痛性の硬結で膿を出すようになる）を生じる。塊はすぐ消えるが、稀に潰瘍となる。

Treponema pallidum 梅毒トレポネーマ

第2期

感染後3か月～3年の状態。

全身のリンパ節が腫れる他に、発熱、倦怠感、関節痛などの症状がでる場合がある。

バラ疹と呼ばれる特徴的な全身性発疹が現れることがある。

赤い目立つ発疹が手足の裏から全身に広がり、顔面にも現れる。

特に手掌、足底に小さい紅斑が多発し、皮がめくれた場合は特徴的である。治療しなくても1か月で消失するが、抗生物質で治療しない限りトレポネーマは体内に残っている。

Treponema pallidum 梅毒トレポネーマ

第3期

感染後3～10年の状態。

皮膚や筋肉、骨などにゴムのような腫瘍（ゴム腫）が発生する。
（医療の発達した現代では、このような症例をみることは稀である）

第4期

感染後10年以降の状態。

多くの臓器に腫瘍が発生したり、脳、脊髄、神経を侵され
麻痺性痴呆、脊髄癭を起こし（脳梅）、死亡する。
現在は稀である。

Treponema pallidum 梅毒トレポネーマ

先天梅毒

先天梅毒は、梅毒トレポネーマにより引き起こされ、胎盤を通じて

胎児に伝播される多臓器感染症である。

早期の徴候は、特徴的な皮膚病変、リンパ節腫脹、肝脾腫、発育不全、血液の混入した鼻汁など。

母親における無治療の第1期または第2期梅毒は通常伝播されるが、潜伏期梅毒や第3期梅毒は通常伝播されない。

成人の場合と同様に、梅毒には早期、潜伏期、および晩期の徴候がある。

治療:

ペニシリンGの筋注、ドキシサイクリンの経口投与